

7 ちよこっと船旅でマグロ料理と 日豊海岸の海の幸巡り

シーズン
通年

ストーリー ●地中海を連想させる独特な景観、まぐろ漁が盛んな保戸島へショートトリップしたあとは、リアス式海岸沿いのルートを右に青い海、左にミカン畑を見ながら北上します。

モデルルート

09:50 ~ 10:55 湯布院IC ~ 津久見IC ~ 津久見港

11:10 ~ 11:35 津久見港 ~ 保戸島港 (航路にて)

11:35 ~ 12:10 保戸島を散策



※令和4年10月より船舶運行会社の変更に伴いダイヤ減便の可能性があります。また、荒天時は欠航することもあります。

12:10 ~ 13:10 穂門島大川で昼食

13:20 ~ 13:45 保戸島港 ~ 津久見港 (航路にて)

13:45 ~ 13:50 津久見港 ~ JAのぞみ市場だんだん

13:50 ~ 14:10 JAのぞみ市場だんだんでお買い物

14:10 ~ 14:50 JAのぞみ市場だんだん ~ あまべの郷 関あじ関さば館

14:50 ~ 15:10 あまべの郷 関あじ関さば館で休憩とお買い物



15:10 ~ 15:20 あまべの郷 関あじ関さば館 ~ 幸青果

15:20 ~ 15:40 みかんのデパート「幸青果」でお買い物



15:40 ~ 16:50 幸青果 ~ 大分宮河内IC ~ 湯布院IC

本日のお食事



まぐろコース

甘辛いゴマダレ風味のひゅうが丼、刺身やまぐろの心臓などが味わえます。かぶと焼き (別注 13,200円) も有名。
穂門島大川 TEL0972-87-2024 (予約制)

※現在メニューを限定してテイクアウトのみの営業となっております

保戸島

津久見港から約14km豊後水道に浮かぶ島で、周囲4km、面積0.86km²、人口約630人。明治中頃に始まったマグロ漁業で、現在も日本各地でマグロを水揚げしています。島には平地が少なく、海岸から山への斜面に3、4階建ての住宅がひしめきあい、地中海を連想させる独特の景観をつくっています。「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」にも選ばれています。



保戸島の詳細な情報はこちらから



「日本で一番狭い県道」と噂される県道612号。全長は256m、幅は最も狭いところは1.2m。



島の銘菓「かず巻き」



保戸島夏祭り (7月)

日豊海岸の柑橘類

大分県南部の柑橘類は、津久見の温州みかん、臼杵のかぼす、佐賀関の甘夏を中心に多様な品種が栽培されています。温暖な気候に加え、豊後水道の潮風があたるため、美味しくなるそうです。

また、津久見市には我が国最古の柑橘として、国の天然記念物にも指定されている樹齢850年以上の「尾崎小ミカン先祖木」があり、慶長15年(1610年)には、朝廷にこの小みかんが献上されるなど、日本屈指の歴史と伝統を誇るみかん産地です。



みかん畑から望む豊後水道

JAのぞみ市場だんだん

地元の農家さんが生産した野菜、果物や花などを中心に、ジャムやパン・お菓子類などの加工品も年間通じて販売しています。みかんは9月の極早生に始まり1月までは温州類が、12~3月まではポンカン・甘夏・清見・不知火など晩柑類が、カボスは8~12月上旬頃までと、様々な品種を取り扱っています。



SDGs との関連性

